

第39回 石川県リウマチケア研究会 (プログラム抄録集)

謹啓 初夏の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて この度、下記のように「石川県リウマチケア研究会」を企画いたしました。
本研究会ではリウマチケアに関わる先生方、スタッフ方々の研修目的で、学術講演会を開催しております。リウマチに携わる医師をはじめ、理学療法士、作業療法士、看護師、薬剤師、介護職等皆様お誘い合わせの上、多くの方々のご出席を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

第39回石川県リウマチケア研究会

当番世話人 北陸大学 岡田 守弘

代表世話人 城北病院 村山 隆司

- 記 -

日 時 2019年8月4日(日) 10:00～12:50

場 所 石川県地場産業振興センター新館5階 第12研修室

(裏表紙の地図を参照してください)

金沢市鞍月2丁目1番地 TEL:(076)268-2010

参加費:500円

◎当日は軽食をご用意しています。

(なお、国公立等の施設にご所属の先生方におかれましては、事前にご所属施設の規則等をご確認の上、ご対応いただきますようお願い申し上げます。)

◎当講演会は以下単位(申請料各1,000円)の取得ができます。

日本リウマチ学会専門医・登録ソノグラファー単位 1単位

日本リウマチ財団登録医単位 1単位

日本リウマチ財団登録リウマチケア看護師教育研修単位 1.5単位(カリキュラムコード2-1 2-3)

日本リウマチ財団登録薬剤師教育研修単位 1.5単位(カリキュラムコード2-1 2-4 2-5 3-1)

日本リウマチ財団登録理学・作業療法士教育研修単位 1.5単位(カリキュラムコード2-1 2-3)

日本整形外科学会学会教育研修単位1単位

共 催:石川県リウマチケア研究会・エーザイ株式会社

〈 プ ロ グ ラ ム 〉

【話題提供】10:00～ 「ヒュミラの最新の話題」 エーザイ株式会社

【開会の辞】10:10～ 北陸大学 薬学部 実践実学系 准教授 岡田 守弘 先生

【一般演題】10:15～10:45 (1 演題 10 分:講演 7 分 質疑 3 分)

座長 石川勤労者医療協会 城北病院 リハビリテーション部 廣瀬 辰巳 先生

1. 「リウマチ治療薬とサプリメントの併用について

ー当院リウマチ患者さんのアンケート調査よりー

金沢宗広病院 薬剤部 松永 智栄 先生

2. 「関節リウマチ患者に対する低強度による筋力増強運動の効果」

石川勤労者医療協会 城北病院 リハビリテーション部 坂本 暢 先生

3. 「嚥下障害を合併した成人抗 NXP-2 抗体陽性皮膚筋炎の 2 症例」

金沢大学附属病院 リハビリテーション部 麦井 直樹 先生

【ミニレクチャー】10:45～11:15

座長 金沢医科大学 血液免疫内科学 准教授 山田 和徳 先生

「関節リウマチ患者の療養生活に求められる

社会保障関連制度『今から、ここから』

金沢大学 人間社会学域 地域創造学類 非常勤講師 馬渡 徳子 先生

【休 憩】11:15～11:45 (休憩時に世話人会を行います)

【特別講演】11:45～12:45

座長 北陸大学 薬学部 実践実学系 准教授 岡田 守弘 先生

「 関節リウマチ患者の自己効力感 」

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校

教員 粥川 由佳 先生

【閉会の辞】12:45～

石川県リウマチケア研究会 代表世話人 城北病院 村山 隆司 先生

〈 一 般 演 題 1 〉

「リウマチ治療薬とサプリメント併用について—当院リウマチ患者さんへのアンケート調査より—」

○松永智栄¹⁾、草島広樹¹⁾、浅田喜美子²⁾、松本晴彦³⁾

¹⁾金沢宗広病院 薬剤部 ²⁾金沢宗広病院 看護部 ³⁾金沢宗広病院 整形外科

【はじめに】

リウマチ治療薬の第1選択薬であるMTXは葉酸代謝拮抗作用を持つ薬剤であり、葉酸を多く含むサプリメントや栄養食品を摂取するとMTXの関節リウマチに対する効果が弱まる可能性がある。昨年、外来通院患者さんがMTX服用中にもかかわらず、葉酸が多量に含まれたサプリメントを摂取していた事例を経験した。その経験がきっかけとなり、リウマチ患者さんにリウマチ治療薬(MTX)とサプリメントや栄養食品との併用状況についてアンケート調査および服薬指導を実施することにした。

【対象と調査法】

当院外来通院リウマチ患者154名(男28名、女126名)に対面によるアンケート調査を2019年3月～5月までおこなった。アンケートの質問項目は、①現在摂取中のサプリメントはありますか？②サプリメントは自分の意思で摂取していますか？③サプリメントの購入場所はどこですか？④サプリメントを摂取していることを主治医に報告していますか？⑤MTXと葉酸を含むサプリメントと一緒に摂取するとMTXの効果が弱まる可能性があることを知っていますか？⑥今まで服用しているリウマチ治療薬について詳しい説明を受けたことがありますか？

【結果】

リウマチ患者154名のうち145名(男26名、女119名)からアンケートの回答を得た。現在サプリメントを摂取している患者は51名/145名(摂取のサプリメント31種類)、サプリメントは通信販売、およびドラッグストアからの入手がほとんどだった。サプリメントの摂取は自分の意志で摂取している人は42名/51名だった。現在MTX服用中で葉酸を含むサプリメントを併用していた人は11名、そのうち1名がMTXと葉酸の関係についての知識があった。また、MTXと葉酸を含むサプリメントの関係を知らないMTX服用患者は65名/89名もあり、リウマチ治療薬について詳しい説明を受けたことがあると回答した患者は52名/145名だった。医師にサプリメントを摂取していると報告していた人は4名/51名だった。

【考察および今後についての課題】

リウマチ患者さんの3人のうち1人の割合でサプリメントや栄養食品を摂取していることがわかった。また、MTXと葉酸含有サプリメントの併用でMTXの効果が弱まる可能性があることを知らないままサプリメントを摂取している事例が11例あった。さらに、患者さんからの聞き取り調査で、調剤薬局で服薬指導を受けてもきちんと理解出来ている人が少ないことがわかり、MTX服用に関しては院内で服薬指導をおこなうことにした。MTX服用について説明する際、プライバシー保護のため個室を利用し、特にお薬の副作用

に関しては恐怖感を与えないように工夫して説明を行っている。サプリメント摂取の可否については主治医に申し出て判断を仰ぐようにとアドバイスしている。これからも患者さんに寄り添った服薬指導を行いたいと考えている。

〈 一 般 演 題 2 〉

「関節リウマチ患者に対する筋力増強運動の効果」

○坂本暢¹⁾、中崎聡²⁾

¹⁾公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北病院リハビリテーション部

²⁾公益社団法人 石川勤労者医療協会 城北診療所リウマチ科

【はじめに】骨格筋収縮で生成、内分泌されるマイオカインが抗炎症作用を有することが示され、炎症性疾患に対する筋力増強運動の有効性が報告されている。当院では、関節リウマチ患者への筋力増強運動の効果の検証を2017年より開始した。今回は、途中経過を症例紹介含め報告する。

【対象と方法】当院リウマチ外来通院の患者の内、①Class I，II 又はIII，②圧痛腫脹関節数を1個以上認める，③過去3ヶ月薬剤変更なく，2ヶ月間変更がないと予測される，④歩行可能，⑤介護保険リハビリを利用していない，以上の条件を全て満たした者。期間 は2ヶ月間，下肢の大関節中心のプログラムを50%1RM以下の強度で週3回実施し，評価項目は，炎症マーカー，疾患活動性，最大筋力，歩行速度を開始前と2ヶ月後で測定し比較した。

【結果と症例紹介】圧痛および腫脹関節数は有意に減少し，特に下肢の関節での改善が多かった。炎症マーカーではESR，CRPともに有意な改善は認めなかった。疾患活動性では全てにおいて有意に改善した。膝伸展筋力，10m歩行速度では有意な改善を認めたが，握力では改善傾向ではあったものの有意ではなかった。紹介する症例は，経過中に膝関節炎が増強した患者である。運動方法を確認するとスクワットにおいて膝関節の屈曲角度が指導内容と比べ拡大しており，最終屈曲位周囲で右膝関節が内側へ移動していた。それが右膝関節に過負荷が生じていると考え，運動方法を修正したところ，1週間後には腫脹の軽減を認めた。2ヶ月目の評価では初回に比べ圧痛腫脹関節数ともに改善を認めた。

【考察】今回の結果は，筋力増強運動が関節炎を軽減させる可能性を示唆している。また下肢筋力や歩行速度，機能的寛解の指標であるHAQ-DIでの改善を認めたことは，筋力増強運動によって下肢筋力が向上したことで生活上の機能障害の軽減にも繋がったと考えた。運動肢の関節への直接的な悪影響は認めなかったが，一方で，運動を行う上では代償動作やメカニカルストレスに配慮した運動方法など，専門職による個別的な運動指導が定期的に実施される必要性も考えられた。

〈 一 般 演 題 3 〉

「嚥下障害を合併した成人抗 NXP-2 抗体陽性皮膚筋炎の 2 症例」

○麦井直樹¹⁾、沖田浩一¹⁾、染矢富士子²⁾、松下貴史³⁾、濱口儒人³⁾、竹原和彦³⁾

¹⁾ 金沢大学附属病院 リハビリテーション部 ²⁾ 金沢大学医薬保健研究域保健学系リハビリテーション科学 ³⁾ 金沢大学医薬保健研究域医学系皮膚分子病態学

【はじめに】抗 NXP-2 抗体は小児例の報告が多く、成人では悪性腫瘍の合併が多い。我々が経験した成人抗 NXP-2 抗体陽性の症例は、嚥下障害と筋症状がみられ、ADL が低下していた。症例の臨床像とリハ経過を報告する。

【症例紹介】症例 1 は 20 歳代の男性、罹病期間は 1 ヶ月。初発症状として、皮疹、筋力低下、嚥下障害、倦怠感がみられた。入院時 CK 値は 2412。入院 2 日目、筋力は MMT で頸前屈 2 肩屈曲外転左右 3 股屈曲左右 3 膝屈曲伸展 4 と近位筋の低下が顕著。間質性肺炎や悪性腫瘍は認めなかった。ADL は BI85 点。症例 2 は 40 歳代の女性、罹病期間は 2 ヶ月。初発症状として、皮疹、筋痛、筋短縮がみられた。初診外来時 CK 値は 277。筋力は MMT ですべて 5。筋短縮はみられたが ROM 制限は目立たなかった。間質性肺炎は認めなかった。ADL は BI100 点。なお、発表に際して説明を行い、本人から書面にて同意を得た。

【経過】症例 1 は入院 4 日目にステロイドパルス療法が施行された。その後 PSL60mg 内服開始となった。治療開始 2 週後 CK は正常化したが、四肢・体幹の筋力低下や嚥下障害は進行した。治療強化された治療開始 2 ヶ月後より筋力・嚥下とも改善を示した。治療開始 4 ヶ月後、ADL 全自立で学業復帰した。

症例 2 は、PSL30mg で治療開始後も CK 値の改善に乏しく、筋症状も頸前屈 2 肩屈曲外転 3 股屈曲 4 へ悪化した。経過中に子宮がんと診断された。この期間に嚥下障害が出現し BI60 点となった。手術後は CK 値正常化、筋力や嚥下障害は改善し、手術後 3 週間で ADL 全自立となり自宅退院となった。

【結語】2 症例とも初期治療反応は不良であり、ADL 改善も遅延したが、最終的には後遺症なく社会復帰した。

【ミニレクチャー】

「関節リウマチ患者の療養生活に求められる社会保障関連制度『今から、ここから』」

金沢大学 人間社会学域 地域創造学類 非常勤講師

馬渡 徳子先生

医学の進歩により、専門医による早期診断、早期治療により、四肢多関節の関節破壊や変形を防ぐことが可能になって久しい。また、多職種の間により、患者の人生のライフステージにおける長期的 QOL の改善ももたらしている。

一方で、「高額な医療費負担」という現実が、患者の個人因子・環境因子により、治療アクセスと生涯を通じた療養生活に差別化が生じていることも事実である。つまり、「患者像が変化」しているにも関わらず、療養生活に必要とされる社会保障・社会福祉施策が、新しい患者層には届いていない状況にあるのではないかという問題意識・仮説を立てた。

そこで、今回は、1960 年以降の関節リウマチ治療の転換期と、日本リウマチ友の会を中心とする患者会、難病患者会、障害者運動の歴史、難病施策、社会保障・社会福祉施策の変遷と関連性について、文献研究により時系列に比較検討した資料を紹介する。

とりわけ「医療保障」に関する更なる環境整備の必要性について、「国」と「都道府県・市町」レベルでの動向と課題をソーシャルワーカーの立場から検証し、石川県における政策的課題について提起をする。

【特別講演】

「関節リウマチ患者の自己効力感」

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校 教員

粥川 由佳先生

関節リウマチ (Rheumatoid Arthritis: 以下 RA) は、原因不明の免疫異常によって生じる自己免疫疾患である。近年、薬物療法の進歩によって関節破壊の抑制を目指した治療が行われるようになったが、今も RA は長期にわたって療養する必要がある慢性疾患である。RA は他の慢性疾患と比べてコントロールが難しく、対処行動を実践することで必ずしも病状をコントロールできるとは言い難い。しかし、RA 患者が病気でありながらも自身が望む生活に近づけていくためにはセルフマネジメント能力を身につける必要があり、そのためには自己効力感を高めることが有効であるとされている。

今回の講演では、RA 患者の自己効力感に影響する要因について検討した結果から、RA 患者が前向きに療養生活を送るために必要なケアについて考える機会としたい。

石川県地場産業振興センター 地図

